

台湾の伝統的な結婚式

パイナップル

吉田結捺

劉姵紋

劉欣柔

鍾寶儀

台湾の伝統的な結婚式

摘要

在傳統台灣社會結婚代表成家立室，因此不少人視婚嫁為人生一大重要之事。筆者們希望以台灣傳統婚禮為主題進行研究，以了解台灣自身文化，並將其推廣至國際。此次報告將透過訪問的形式，調查傳統婚禮的細節及其象徵意義，並以網路問卷調查現今年輕人對結婚的看法及未來趨勢。現在許多傳統文化漸漸式微，無論是婚禮抑或是傳統技藝，希望藉此報告讓更多人了解傳統文化的內涵及價值。

關鍵字：新娘、結婚、生子、傳統、娘家

序論

大部分の人が一度は結婚を経験するだろう。「結婚式」といえば、台湾人は自分の国の伝統的な結婚式ではなく、西洋式の結婚식을思い浮かべるかもしれない。結婚式だけではなく、伝統的な文化や習慣を知っている人がだんだん減っている。そのため、この研究を通して、私たちが育って来た台湾の中華文化をもっと認識し、日本語で記すことで、より多くの人に中華伝統文化とその意味を知ってもらい、世界に広まっていくことを望む。

資料を集めるほか、アンケートとインタビューを通して研究を進めた。中国語版と日本語版で同じ質問をし、現代の台湾と日本の未婚の人を対象に結婚についての考え方を調査した。

また、グループのメンバーのおばあさんにインタビューして、当時の結婚式の様子や、伝統的な結婚式の習慣やタブーに込められている意味などの内容を含む動画を作成した。おばあさんは時々結婚式の仲人をしているため、動画には仲人の仕事の内容も含まれている。

まず、台湾の伝統的な結婚儀式について、紹介する。

1. 吃姐妹桌

台湾には、花嫁が嫁ぐ前に花嫁の実家で「吃姐妹桌」を行わなければならないという伝統的な風習がある。「吃姐妹桌」とは、花嫁と家族と一緒に食事をしたり、縁起のいい話（早く子どもを授かる、夫婦がいつまでも幸せに暮らすなど）をしたりするもの。その際、花嫁は実家を離れるため、悲しい顔をしなければならないとされていた（現在はそれほど厳格ではない）。

結婚当日、花嫁が送迎車に乗った後、花嫁の家族の代表一人がその車の後ろに水や米を撒く。これは、撒いた水や米が元に戻らないのと同じように、娘ももう実家には戻らないことを意味する。

2. 擲扇

花嫁は、扇子に紅包（赤い祝儀袋）とハンカチをつなげたものを、車の中から外に投げる。これは、嫁ぐ前に今までの悪い習慣や心を捨てて、新郎の家に持って行かないようにという意味がある。

3. 進洞房／翻舖

新婚の夫婦の部屋のベッドの上には竹の籠を置き、テーブルの上には銅鏡を置く。また、新郎新婦は黒棗、桂圓、ピーナッツ、ハスの実が入ったスープを飲む。これらは、男の子を授かるようにという意味がある。

4. 歸寧

花嫁は嫁いで三日後に実家に戻る。これは、結婚しても母親を忘れないという意味がある。

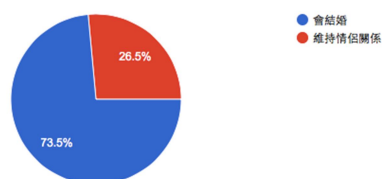
アンケートの結果と分析

11月8日から11月23日まで、およそ80人にオンラインアンケートを実施した。回答者は台湾人と日本人、それぞれおよそ半数ずつである。

調査の目的

本アンケート調査の目的は、結婚について台湾の若者と日本の若者がどのような意見を持っているかを明らかにすることである。伝統社会においては、結婚の内容は多様で、ただ結婚式を挙げるだけではなく、様々なイベントや結婚の礼品がある。この調査は、結婚する場合と結婚しない場合に、どのような理由を考慮するか、という質問を主たる内容としている。

如果你有另一半，你會想和他／她結婚嗎？抑或是一直維持情侶的關係呢？



もしパートナーがいれば、その人と結婚したいですか。それとも恋人の関係のままでいいですか。

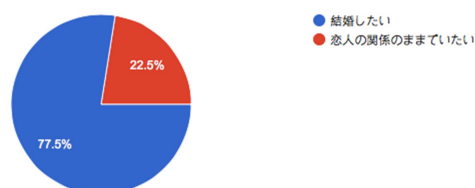
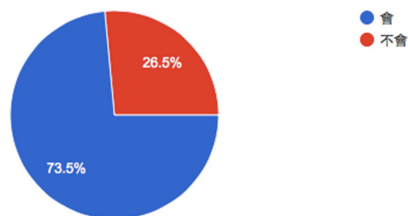


図 1. もしパートナーがいれば、その人と結婚したいか、それとも恋人の関係のままでいいか

この問いに対し、台湾人も日本人も「結婚したい」という回答が多く、両者とも70%を超えている。その理由としては「相手と家族になりたい」や「子供が欲しい」などが挙げられた。

「恋人の関係のままでいたい」と回答した人はおよそ 25%であった。その理由としては「まだ結婚することが想像できない」、「結婚したら顧慮することが多くなるから」などが挙げられた。

如果你打算和另一半結婚，你會想辦結婚典禮嗎？



パートナーと結婚する場合、結婚式を挙げたいですか。

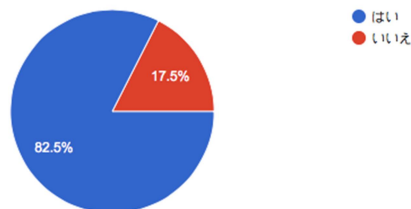
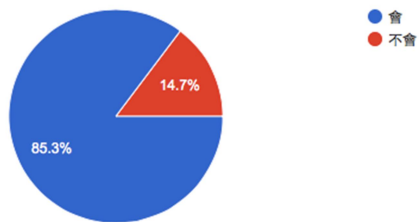


図 2. パートナーと結婚する場合、結婚式を挙げたいか

この問いに対し、台湾人は 73.5%が「はい」と回答した。その理由は主に、「思い出として残したい」や「家族と親友に知ってもらいたい」というもの。日本人のほうが台湾人よりおよそ 10%高いという結果が得られた。「ウェディングドレスを着てみたい」と「記念にしたい」という理由を挙げた人が多かった。

「いいえ」と回答した人は、台湾人と日本人ともに「お金がかかるから」という理由であった。

你會想拍婚紗嗎？



結婚写真を撮りたいですか。

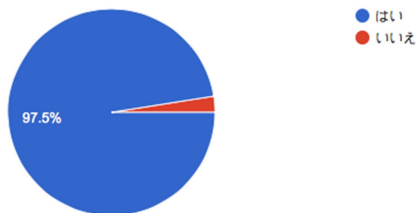
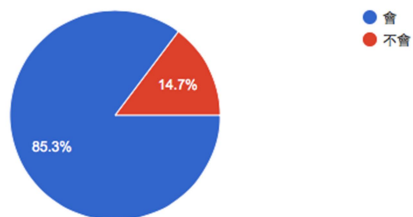


図 3. 結婚写真を撮りたいか

この問いに対し、台湾人のおよそ 85%、日本人のおよそ 96%が「はい」と回答した。多くの人々が、「記念のため」という理由を挙げた。

「いいえ」を選んだ人は、主に「費用が高すぎるから」という理由を挙げた。

你會想度蜜月嗎？



新婚旅行に行きたいですか。

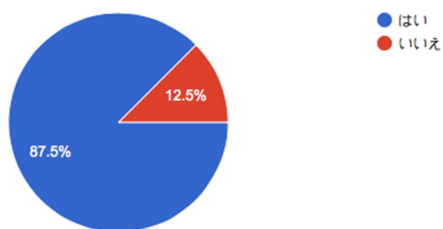
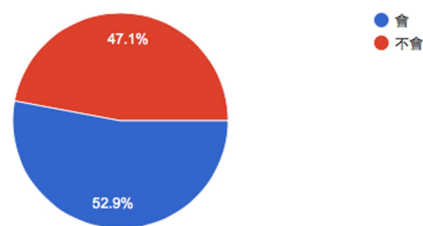


図 4. 新婚旅行に行きたいか

この問いに対し、台湾人と日本人ともに「はい」と回答した人がおよそ85%を占めた。その理由は、「パートナーと旅行してリラックスしたい」や「結婚後一緒に旅行する機会が少ないかもしれない」などが挙げられた。

「いいえ」と回答した人の多くは、「お金を旅行より家計に使いたい」という理由を挙げた。

你會想舉辦婚宴嗎？



結婚式を挙げる場合、結婚披露宴を行いたいですか。

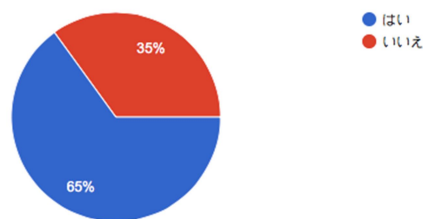
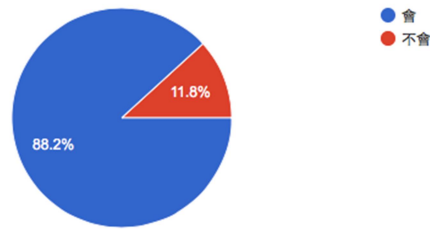


図 5. 結婚式を挙げる場合、結婚披露宴を行いたいか

この問いに対し、「はい」と回答した台湾人はおよそ 53%、日本人は 65%であった。両者とも「家族と友達と幸せを共有したい」という理由が多く挙げられた。

「いいえ」と回答した台湾人はおよそ 47%を占め、日本人より約 10%多かった。その理由としては、「目上の人に気を遣うのが面倒くさい」などが挙げられた。

你會想買婚戒嗎？



結婚指輪を買いたいですか。

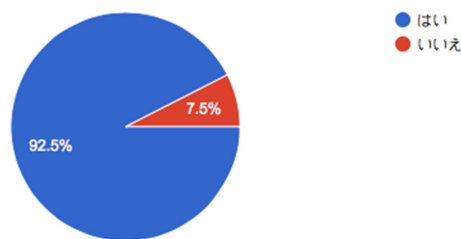


図 6. 結婚指輪を買いたいか

この問いに対し、台湾人も日本人も、およそ 90%の人が「はい」と回答した。特に、日本人は「いいえ」と回答した人が 10%に満たなかった。「はい」と回答した人の多くが「指輪は夫婦の象徴的なものであるため」という理由を挙げた。

反して、「いいえ」と回答した人は「形あるものよりも、信頼関係や愛情など、形ない感情の方が大切」という理由を挙げた。

考察

アンケート結果より、全ての項目において台湾人より日本人の方が「結婚したい」または「はい」と回答した人の割合が大きいことが分かる。しかし、回答理由に注目すると、台湾人も日本人もそれほど大きな違いは見られない。(主な回答理由は下記の通り)

(台湾人)

はい⇒・法律的な確かな関係が保証される

- ・家族になりたい
- ・子どもが欲しい
- ・記念、思い出になる
- ・家族や友達と幸せを共有したい

いいえ⇒・面倒くさい

- ・お金がかかる
- ・自由がいい

(日本人)

はい⇒・子供が欲しい

- ・家族になりたい
- ・一生に一度だから
- ・周りの人に感謝したい
- ・記念、思い出になる
- ・(指輪について) 結婚の証になる

いいえ⇒・まだ結婚を考えられない

- ・お金がかかる、そのお金を別のことに使いたい

「いいえ」の回答理由の多くは、台湾人も日本人も「お金がかかるから」というものであった。現代の若者の中には、結婚するにあたって結婚式や結婚披露宴などよりも、他にお金をかけるべき重要なことがあると考える人もいるということだろう。

インタビュー動画

伝統的な結婚式についての調査の一環で、グループのメンバーのおばあさんにインタビューをした。インタビューの様子は以下の通り。(インタビュー動画は11月23日に撮影)

インタビュアー：青 おばあさん：橙

私のおばあちゃんです！

おばあちゃんはいつ結婚したんですか。

55年だよ。

民国55年ですか。

そう、民国55年だよ。

結婚してどのくらい経ちましたか。

もう53年だね。

お婆ちゃんが結婚した時、おじいちゃんに迎娶(花嫁を迎える儀式)をしてもらいましたか。

してもらったよ。

お婆ちゃんはまだその時のことを覚えていますか。

私たちは旅行結婚。私たちの家はとても近くて、歩いて五分ぐらいだった。だから、高雄を五日間旅行して、そのときに結婚した。

引き菓子を買いましたか。

買ったよ、買ったよ。指輪もネックレスも引き菓子もあったよ。引き菓子はないとだめよ。

結婚写真は撮りませんでしたか。

とらなかった。

じゃあ、高雄で結婚した時、ドレスを着ましたか。

着たよ、自分で作ったドレス。

自分で作ったんですか！

昔先生から教わったの。だから、自分で赤いドレスを作った。

お婆ちゃんが着たドレスは、お婆ちゃんの手作りですか。

そう、先生から教わった。でももうなくなったわ。

じゃあ、お婆ちゃんとお爺ちゃんの衣装は全部お婆ちゃんが作ったんですか。

いいえ。お爺ちゃんのスーツは買ったよ。作ってもらったよ。

昔は花婿と花嫁の介添え人もいましたか。

いたよ。

お婆ちゃんは今、仲人をしていますね。

へへへ。

仲人はどういう仕事なんですか。

紹介することだね。例えば、あなたは女、パパは男だね。「今日は縁起がいい日だから、どこかで会おう」というとき、昔は女性の家で会ったが、今は喫茶店とかマクドナルドとかで会うよ。隣人に余計なことを言われるのが心配だから。

女性と男性は約束した場所に行って、コーヒーを飲みながら話をする。基本的なことを聞く、例えば「名前は何ですか？仕事は何ですか？」そして、電話番号を交換し、お互いに気に入ったらどこかへ行くこともできる。

お見合いみたいなものですか。

そう。

じゃあ、お婆ちゃんは二人の約束を手伝うだけで、当日は行かなくてもいいですか？

もちろん、行くよ！

あ、それは仲人ではなくて、紹介人だよ。本当に結納する日に仲人になる。

つまり仲人に昇進するってこと。

そうですか。結婚を決める前には紹介人と呼ばれるけど、結婚が決まったら仲人になるんですね。

結納の日、おばあちゃんは二人を連れて約束の場所に行くんですか？

ええ、女性と男性と私だけいる。そうやって紹介する。

彼らが仲良くしゃべっている時もずっと側にいるんですか？

いいえ、その時は私は家に戻るわ。

結婚式では、仲人として何をしますか？結婚の当日。

結婚式は、必ず行くよ。新郎の車で新婦の家に行く。伝統的な結納は必ず12人。私のような仲人、新郎、新郎のご両親。祖父母がまだ健在なら祖父母、いなければ新郎の親戚。必ず12人集める。客家人は必ず12人。ほかの省、閩南人はそんなに多くなくてもいい。5、6人いれば十分。でも、客家人は必ず12人。

どうして12人なんですか？

12は一つになるという意味があって、縁起がいい。

偶数ならいいということですか？

ええ、単数ではいけない。必ず10人や12人でないとダメ。4人と14人でもいけない。

ええ、「4」があるからですね。

伝統的な結婚式は様々な儀式がありますが、一番大切なものは何ですか？なくてはならないもの。

結納で男性側が礼品を12個準備すること。例えば、祝儀袋、引き菓子、指輪、ネックレスなど。そして、結納で男性側は女性側に礼品を12個準備する。1つはお茶を出す人のため、1つは私みたいな仲人のお金。これ（次のこと）は結納じゃなくて、結婚式だよ。結婚の時は、男性側は女性側に礼品を3つ準備するだけでいいよ。

結婚式のときは、新婦の手を組む人、料理人、もてなす人の3人でいい。婚約するときは、男性側は女性側にそんなに多くのものを贈る必要はない。

（上記の）12個を女性側に贈る。男性は女性を招待し、お茶を出し、タオルで手を拭いてあげる。結婚するときは、たった3個贈れば良いよ。

新婦は、もし男性側からケーキやキャンディーをもらっても、絶対に食べてはいけないよ。（食べると悪いことが起こるかもしれない）これはとても重要なこと。私は本当に経験があるの。夫の父親がキャンディーを買ってきた。誰も食べないまま時間が経って、キャンディーが柔らかくなって、水が出てきてしまった。それで私は食べてみたの。そしたら、姑は私を嫌って、私も姑を嫌った。

もう1つ重要なことは、婚約するとき、男性が女性に指輪をはめようとしても、直接最後まではめさせてはいけないよ。途中まではめてもらったら、指を曲げる。これはとても重要なことだから、絶対に覚えておいて。途中まではめてもらったら、指を曲げる。直接下まではめさせてはダメ。もし直接下まではめさせたら、それは結婚後ずっと男性の言いなりになって、自分の意見は持たないということ。おじいちゃん（おばあちゃんの夫）が私に指輪をはめようとしたとき、最後まではめさせなかったよ。だから私は恐くない。少しはめてもらったら、一度止めて、最後は自分で下まではめる。

さっき言ったとおり、食べないようにするのは、伝説によってはね、もし花嫁が結婚前に、相手にもらったお菓子などを食べたら、嫁姑問題が起こるらしい。ホントだよ。あの時おばあちゃんは食べてみたの。それで、伝説はホントだと信じてきた。

大丈夫だと思ったの。だって、姑もやさしいし、家も近いからね。結婚の前に、相手の家で喋ったことがあるのよ。あの頃はね、小さい椅子を運んでくれたこともあるよ。あんなにやさしい姑なら、きっと仲良く生活できると思ったのに、結婚したらとても仲が悪いの！お互いにイヤだった。

相手に話せないほど嫌だった。話そうと思ったら、喉が詰まりそうだと感じた。

「前はあんなに優しくかったのに、どうして結婚後は急に…」

わかんない。あのお菓子を食べたせいかもしれない。あともう一つ、昔はね、お爺ちゃんがあまりお金を持ってなかったのよね。結婚するために、1万9600円必要だったけど、爺ちゃんが一人っ子で、お金も足りなかった。先生が暖簾を2つかけると教えた。暖簾はね、部屋のドアにかけるために、2つ必要なのよ。1つは姑が、もう1つは自分で使う。このことをお爺ちゃんに

話したら、お爺ちゃんが要らないって言い返したの。1つでいいって。自分でお金を稼ぐし、自分の妻だし、他の家のルールを守らなくてもいいって。

旅行から帰って5日後ね。おばさんが、家に何日か泊まりにきた。帰った時はもういた。その時はしまったと感じた。ホントに。

「えっ、どういうこと？」

大変なことをしたのよ。姑へ買わなかった。元々結婚する時に買うべきだった暖簾、1つしか買わなかった。姑に買わなかったの。

姑に買わなかったんですか？

うん、買わなかった。あなたたちの場合は、姑がいれば、伝統的に2つ買ったほうがいいのよ。その金は節約しないようにしてね。値段もそんなに高くないし。

姑はそのことで怒ったんですか？

うん、そう思ってる。

買わなかったから気に障ったんですか？

そう、はっきりと言わなかったけど、それ以降、仲が悪くなっちゃったの。だからね、あの食べ物は食べてはいけない。結婚の日、相手はきっと沢山の肉などを贈ってくれる。でも、花嫁は食べられない。今後、あなたが結婚する時、もしおばあちゃんがまだ生きていたら、絶対（あなたの）お母さんに注意する。台所で手伝う時は、別の料理をあなたに作ってあげる。

他の家族は食べても構わないけど、自分で食べてはいけないんですか？

そう、本当にあの家の一員になるまでは絶対食べられない。覚えておいてね！

はい、そろそろ終わりましょうか。おばあちゃん、ありがとうございました。

結論

今回のレポートを通して、自身の伝統的な文化をより深く理解することができた。特に、インタビューから、「客家」の結婚式を認識できた。中には、儀式の種類が多く複雑なものがあるが、全て中華文化において重要なことである。現在も受け継がれている儀式は、送迎車の後ろに水を撒くことだけで、その他の儀式は現在は行われていない。このことから、伝統は薄れてしまっていると言えるだろう。しかし、外来文化を受け入れながら、自分の文化も守り続け広めていくべきである。

また、アンケートより、台湾人も日本人も結婚式や披露宴を行うことで「思い出、記念になる」という回答が多くみられたが、その一方で、「その費用を別のことに使いたい」という回答も少なくなかった。このような理由から、両国ともに現在はできるだけ費用を抑えた小規模な結婚式や、写真撮影のみ、または何もしないというような様々な「結婚の在り方」があると考えられる。

參考資料

1. 淺淡台灣傳統婚嫁習俗—阿熏—2019/11/19
<https://womany.net/articles/2993/amp>